

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立甲田中学校	校長氏名	宮本 直彦	生徒指導主事氏名	新谷 竜治
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『全校での取組が自己肯定感の向上を育むバースデーカードの取組』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感』

本校の生徒は、平成 26 年度「基礎・基本」定着状況調査（現第 3 学年）での生活と学習に関する調査項目において、自己実現力・自己効力感、「自分にはよいところがあります。」の問いには、肯定的回答が 59.5%、「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」の問いには、肯定的回答が 56.8%であった。このことから、半数の生徒は「自分のよさを見いだしておらず、他者から十分に認められていない。」と感じていると分析した。また、コミュニケーション能力の不足により、日頃から生徒同士の小さなトラブルも多いことから、根底にある自己存在感や自己肯定感を高めることをねらいとした。

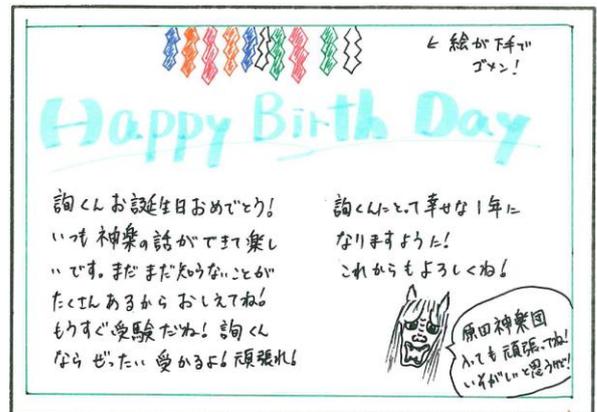
期待できる効果は、①自分自身のことを大切に思える、②友だちの優しさを感じることができる、③日頃から友達のことを大切にする等である。

取組の具体的内容『キーワード 全校 バースデーカード 良さを見つける』

本取組は、昨年度から 2 年目の取組となる。取組の目的は、①誕生日をみんなで祝うこと、②お互いのよい点を見つけ伝えること、③日常的な場においても書く力を伸ばすことである。

まずは、バースデーカードに取り組む意義、生徒の意欲を喚起するために、4 月下旬に生徒指導主事による全校道徳において、思いやり「価値項目 2（2）」の道徳の授業を実施した。構成的グループエンカウンターを取り入れて、思いやる心を育むとともに、バースデーカードに込める思いの価値付けを行う。

バースデーカードは、A6 サイズの厚紙で主に特別活動の時間で作成する。一人一枚、誕生日を迎える生徒に



対して、学級内の生徒が祝福のメッセージを記入する。最初の特別活動の時間では、書く見本を見せ、もらってうれしいカードとは、どの様なものかを各学年で考える。戸惑う生徒も多いが、ひとことではなく、イラストを入れたり、誕生日を迎える友だちが頑張っていることを文章にして伝える工夫をする



ようになった。相手を意識して記入したカードは、各学年会で全員作成しているか確認し、生徒指導部で内容等をさらに確認したうえでラッピングする。ラッピングしたバースデーカードは、誕生日の当日、給食準備中や昼休憩を利用して、校長より祝福の言葉とともに手渡される。その際、校長より学校生活の頑張りや誕生に関わる質問等も行われ、学校全体で生徒の誕生を祝福し存在を認め合っ

ていることを伝える。

生徒は、照れながらも笑顔で受け取り、教室に戻る途中に開封し、読む生徒も多くなる。

生徒の声には、「こんなことを見てくれてるんだ。意外です。」といったものも多く聞かれた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 趣旨説明 振り返り 』

バースデーカードを「書いてみよう！」だけでは、生徒は何をどうすればよいか、わからない。なぜ、バースデーカードに取り組むのか、そのことによりどうなるのか、どのようなカードを仕上げれば良いかを考えさせる趣旨説明を行ったり、考えさせることが大切である。また、単に作業ではなく、全体道徳を通して取り組みへの価値づけを行うことも有効である。

また、バースデーカードを書く時間を、年間を通してどの時期の特別活動に設定するのが適切であるのか、行事や各教科・領域との関連について、生徒の様子を見取る等を行い、検討することが課題である。

さらに、生活ノート等を利用する、あるいはまとまった振り返りの時間を取って、バースデーカードを作成し、受け取ることで生徒がどのように成長をしたか、自分自身を客観的に見つめる時間を取る時間を確保することも課題である。そのことで、生徒自身が自己肯定感や自己有用感を育み、自信になることと考える。

取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の向上 』

平成 27 年度全国学力・学習状況調査（現第 3 学年）の生徒質問紙における質問項目「自分には、よいところがあると思いますか」において、肯定的な回答は 71.4%となった。本取組だけで、肯定的な回答が向上したとは言いきれないが、生徒指導上の問題行動の減少や大きなトラブルは本年度見られない。また、給食当番での片付けの順番も押し付けることもなく、グループ内で話し合っ決めて決めるといった光景も見られるようになった。授業中でも、良い意見や行動が取り上げられた場合、自然と拍手が起こる集団になってきた。

自己存在感の向上から自己肯定感の向上へと効果が上がっているものと捉えている。

今後の展開『キーワード 集団づくり 』

本取組を継続するにあたり、学級・学年の集団づくりで、生徒同士がお互いの良さを見つけていくことが必要である。お互いに認め合うからこそ、誰かのために、集団のために行動に移す生徒を育成したい。よりよい集団づくりのために、年間指導計画等を検討し、構成的グループエンカウンターや他教科・領域との関連付けを研究する。

他校へのアドバイス『キーワード 全体で 』

取組開始時には、教職員全体でバースデーカードの意義を共有し、校長を中心とした生徒指導部や学年会の連携が大切である。生徒指導部が取組を具体化して提案し、実践することで、生徒への付けたい力を共有することで、円滑に取組が行えると考えられる。